



## 高校野球のマナーとルールを学ぼう (第14回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。  
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えしていきます。

### マナー編 アマ規則委員会が徹底「捕手はミットを動かすな!」

捕手が捕球時に、ミットをボールゾーンからストライクゾーンに動かしてストライクの判定を狙うのをしばしば見かけます。捕手のテクニックだと思っていたのですが…。

2009年の開季に際して日本アマチュア野球規則委員会が呼びかけました。オリンピックをはじめとする国際試合が多くなるにつれ、投球を受けた捕手がストライクに見せかけるように、ストライクゾーンの内側にミットを動かす行為が取りざたされたことによる反省です。日本では「日常的に見慣れた行為」とも言えますが、上手にごまかして有利な判定を得ようとする意図は明らかです。もっとも「ボール」か「ストライク」の判定は、基本的に本塁上を通過するボールの位置で決まりますから、ミットを動かすこと自体が無駄にも思えます。審判の目をだますのも技術の内と、教えられて育った選手もいるそうです。ライナー性の飛球でショートバウンドしていながら、ノーバウンド捕球を訴えるようにグラブを高々と挙げるのも同じ発想でしょう。

スポーツにアンフェアは無縁、どんなに小さくても「不正」を排除することこそファイト(勇氣)です。キャンペーンはマチュアが対象ですが、影響の大きいプロ野球が改革してほしい…と思います。



### ルール編 キャッチャースボックスの意義

試合中、捕手は投手に外角へのウエストボールを要求し、片方の足をキャッチャースボックスから大きく出して構えています。すぐに球審からキャッチャースボックス内に留まるよう指導を受けました。カウントは0B-2S、ボールを一球投げさせたいのですが…。

規試合開始前の整備されたグラウンドには、バッタースボックスとともに捕手が位置すべき場所としてキャッチャースボックスが白線で示されています。本塁の中心線から左右21.5呎(約55呎)幅ですから全幅110呎です。規則4.03(a)には「捕手は、ホームプレートの直後に位置しなければならない」と太字で記載されています。続けて、「故意の四球が企図された場合は、ボールが投手の手を離れるまで、捕手はその両足をキャッチャースボックス内に置いておかなければならないが、その他の場合は、捕球またはプレイのためならいつでもその位置を離れてもよい」の規定です。文字通り、ボールが投手の手を離れる瞬間まで、捕手はキャッチャースボックス内にいなければなりません。

野球は「ピッチャーが投げた球をバッターが打つ」ことから始まります。時に投球のカウントによってはボールを投じるときもありますが、捕手は規則通りに定められた場所=キャッチャースボックスに位置する必要があります。球審はその意義を説明したのです。

